

2002年 新年！流域活動紹介 特集

P1-2 新河岸川流域流域の活動紹介

新河岸川流域情報

P4-5 新河岸川流域紀行 歩く・見る・聞く

P6 新河岸川流域川づくり学習会 予告編

P7 市民の広場—市民の活動レポート—

不老川流域川づくり市民の会

課外授業「不老川お宝発見」活動報告

新河岸川流域川づくり連絡会報告

P8 イベントカレンダー

事務局から



切絵 毛利将範

明けましておめでとうございます

もっと元気な流域をめざして！活動紹介特集

新河岸川流域にある各支川の多くは、都市河川としてコンクリートの護岸で固められた姿をしています。しかし、川の周辺など流域という視点でみると、雑木林や農地など美しい自然の風景も残っています。川もまた、殺風景だったものから地域の方々が集う輝いた姿を取り戻そうとしています。

流域は、都市化の問題を受けながら、日々変わり続けています。そうした保全や改善は、新河岸川流域の各地で行われている様々な活動に支えられています。

今回は、右記の市民団体の方々にご協力頂き、流域での活動をご紹介します。

新河岸川流域 活動紹介

不老川流域川づくり市民の会
 不老川をきれいにする会
 ていへん舎

小手指の森に親しむ会
 環境を考える
 市民の会(武蔵村山)

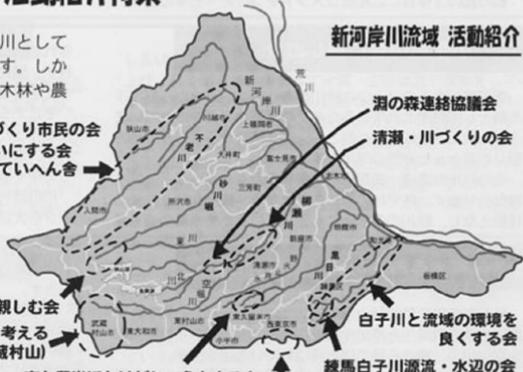
東久留米ほとけどじょうを守る会
 田無の自然を見つめる会

湖の森連絡協議会

清瀬・川づくりの会

白子川と流域の環境を
 良くする会

練馬白子川源流・水辺の会





新河岸川流域 市民の活動紹介特集

みんなでつくる流域 みんなで支える流域

新河岸川流域で活動されている市民団体の方々に、活動のご紹介をして頂きました。多くの宝物が新河岸川流域の各地域に広がっていることが良く分かります。流域は、多くの方々の日常的な活動や取組みによって支えられ、活気に満ちています。

掲載されている活動については、新河岸川流域新沢事務所までお問い合わせ下さい。TEL/FAX 042-994-3212

不老川流域川づくり市民の会

蘇った？不老川

昨年「大森の池祭り」で魚やザリガニが沢山採れ、不老川では入間市でフナを釣った子供がいたり、狭山市でもモツゴやメダカが採れたが、12月の川越市高路北小学校の環境学習では、川底がミズワター一杯になり魚は全く採れませんでした。これは昨年、大森調整池の水が溢れなかったで魚

が増殖し、夏場不老川の水がきれいになって出てきて、冬場水が汚れて下流に流されたものと思われず。

不老川の名前の由来となった昔のように水は濁れないが、濁水は濁れて家庭排水だけになった汚れた水となり、魚がいなくなったと思います。昭和58年には日本一汚い川だった不老川に魚が蘇った事は、自然の恵さと思うと共に、更に自然豊かな不老川にする為みんなで知恵を出し合って頑張らなければ、と思うものです。(記：相馬和彦氏)

不老川をきれいにする会

当会は、昭和58年から3年連続不老川の水質が100PPMを越えて日本一汚ない川になってしまったので、私が流域31自治体に呼びかけ、狭山市と「川の中のゴミは住民が引き上げるから、処理は市です」という約束を取りかわして、昭和60年12月7日浄化活動を始めた。

上流の所沢入間下流の川越の浄化団体と一緒に、不老川浄化市民団体連絡会を結成。県も同様の生活排水対策協議

会を作り、官企民のネットワークで16年の住民主導型です。ゴミを引き揚げては、すぐ捨てられ、また引き揚げるという苦勞の連続で、漸く魚もすめるような川になっている。これまで、環境大臣表彰などから表彰11回。今年は、カナダのトロントの国際環境自治体協議会を通じて、世界各自治体環境担当者に報告され「すばらしい河川浄化団体だ」と好評を受けた次第です。正しいライフスタイルを家庭ごとで作り、一人ひとりの浄化努力が清流を蘇らせる事につながるかと訴えていく所存です。(記：新井悟様氏)

ていへん会

「人が背を向けた汚名の“不老川”を愛して」のスローガンを掲げて、平成元年にハガキ大の黒い紙に、白一色で版画風点描画を描き出して、現在60景迄こびつけた。

3年前から川越市立福原小学校の6年生の児童達に、額に入った私の絵を紙芝居形式で見せ、視感を通じた水辺環境学習のゲストとして交流をしている。

私の絵の3作目にこんなコメントをつけた「七夕の日を、

川の感謝祭にして、天の川の星のかがやきのような、清流によみがえれ。」

願いはいつかかなうものです。昨年の2月に6年生全員で「不老川・フェスティバル」を開いて下されたのです。

それは、10年たって不老川に変わって児童達が「思いやりの心。を清流をプレゼントして下さいましたのです。

これからも遊び心のあるドラマチックな展開を夢見て「不老川百景」を描き続けて行きたいと思っています。(記：高木宏尚氏)

小手指の森に親しむ会

新河岸川水系のひとつに砂川があります。途中から都市下水路として利用されているため、砂川堀などと呼ばれていますが、狭山丘陵の湧水を源とし、縄文時代から人の暮らしと関りの深かった自然の河川です。

その砂川の流域、西武線小手指駅の近くに3haほどの雑木林があります。住宅地の傍にありながら、様々な野生生物の住処となり、砂川の遊水池にも面しているため水鳥の姿も見

られる美しい森です。しかしここも都市近郊の自然の例にもれず、開発により住宅や駐車場などが森を変えてつらつら、森を愛する者たちは心を痛めています。

そこで5年前、周辺住民の有志が「小手指の森に親しむ」会を作ったのです。地権者の方々の思いをきき、行政と話合い、清掃や手入れ作業をさせていただくなどして、森を保全してゆく道を探っています。

川の流れが森や農地や町をつないでゆく、自然のネットワークを大切にしたいのです。(記：木村牧子氏)

環境を考える市民の会 (武蔵村山)

私たちのまち武蔵村山には2つの川が流れています。多摩川水系の残堀川と荒川水系の空堀川です。どちらも水量の少ない川で、昔から砂川と呼ばれていたようです。

私たちはここ数年、空堀川の湧水調べ、空堀川クリーンアップ、新河岸川水系身近な川の一斉調査への参加等をし、その結果を毎年秋に開催する消費生活展で発表しています。願って「どうしたい？空堀川」。ここで、改修に向けて望まし

い川のあり様について学習し、考えようとする市民へ呼びかけています。

東京都の「多自然型川づくり」の視点と比べ、わが市では沿いの住民からの苦情で川をたまたましてしまったり、管理し易いように観水式に逆行する傾向がまだまだあるので、その点のクリアがこれらの課題です。せとか上流にかワセミの産卵も見られるので、悪名高き「どぶ川」から生きものや緑の豊かな「ゆたかな川」になるよう努力しながら取り組んでいます。若い世代の参加を切望。(記：藤沢泰子氏)

淵の森保全連絡協議会

『柳瀬川と淵の森が織りなす自然美』

私達は、1996年に始まりました。柳瀬川と西武池袋線が秋津線の両方で交差する所にある小さな森が淵の森です。その雑木林が宅地開発されようとしたのを、近隣の自治会と自然保護団体が力を合わせて寄付を募ったところ、『となりのトトロ』作者の宮崎さんが会長を引きつけてくれ、3億円の寄付をしてくださり見事に保全できたのです。

毎年2月初旬に下草刈り、6月中旬にも夏草刈りをし、駐

車場だった所に植えた木々を元の林にするように育てていきます。もちろん宮崎会長も必ず参加し、みんなと一緒に汗を流します。

森には、イチリンソウやニリンソウ、アズマイチゲ、キツネノカミソリなどが野生しており、オオタカやカワセミも飛来してきたり、オオゴロンボも見るようになります。川には、ハヤ、フナ、川エビ、キバチ等も生息しており、コウモリもいるんですよ。

尚、2月10日午前9時より下草刈りを行います。参加費は200円です。どうぞご参加下さい。(記：鈴木敏男氏)

川づくり・清瀬の会

この会が発足して2年目、柳瀬川には水遊びをする子供達も見られる程、清流？が復活したこの年からカヌー・筏下り等の市民参加のイベントを企画しようとする会で話し合っています。平成13年度、金山緑地公園付近の改修工事が終了、素晴らしい河畔公園が完成しました。平成14年度より清瀬橋の架け替え工事、続いて柳瀬・空堀川合流工事となります。この工事は完成まで数年以上かかると言われ、清流苑住宅

近の現河川と左岸にある見事な河畔林を残し、保全することができるとかこの工事は課題です。私達の期待通りこの工事が終われば、柳瀬川中流域に素晴らしい「柳瀬・空堀リバーサイドプロムナード」～金山調整池～金山緑地公園～清瀬せせらぎ公園～柳瀬川旧川の河畔林～中里おぼけ山/雑木林の道～が完成します。川づくり・清瀬の会は、会員一同これからも「ふるさとの川づくり」に努力する所存です。(記：神沢志朗氏)

東久留米ほとけどうじょうを守る会

私たちの会は、1991年、市内の落合川などに生息する貴重なホトケドジョウなどの生きものを棲みよい水辺環境を保全し、自然を活かしたまちづくりを進めるため発足しました。

発足当初は、東京都の無謀な河川改修に対して反対運動も行いましたが、その後は、都と市と共に川に関わる市民団体を交えて、定期的な話し合いの会を行っています。その成果として、1997年に既存のコンクリート護岸を緩傾斜の土質に

変えた「いこいの水辺」が完成しました。

又、東久留米の川の良さを多くの市民に知ってもらうため「わくわく川あそび」も今年で9回目となります。湧水や川に関する専門家や行政担当者、地域の有識者を招いて毎年開いている「清流復元シンポジウム」での学習も重ねています。

今年で10周年となる我が会は、ホトケドジョウが棲み続けられる「まちづくり」のため最近では、小中学生との活動に重点を置いています。(記：豊福正巳氏)

白子川と流域の水環境を良くする会

白子川の流域にはまだ多くの湧水地があり、地域の人々は大切にその水文化を形成してきました。私たちは今年度、まづ川の現状とそれらの地域に触れるべく、源泉から区間を区切って川を下り観察会を行いました。

白子川は川幅も狭く、河川敷も最低限しか取ってありますが、和光市にあっては引川数すらなく、川に沿って歩くことができない状況でした。都市河川の典型的な姿です。しかし

ながら、矢張護岸の根元から噴き出す湧水、堆積した泥や護岸の割れ目に緑している水生植物、そこにはそれらの水生生物が生きて生態系をなしていると思うと、高い護岸とフェンスに囲まれ世界から隔離されていることを残念に思います。白子川の水量の多くを供給している湧水は少なくなったと聞かれています。都市化するこの地域にあって、白子川を存続させるには良い水循環の復活に他なりません。良い水循環を作り出していく流域の地表のあり方は、どうしたらいいのか。これからの課題です。(記：須貝郁子氏)

練馬白子川湧流・水辺の会

井の頭公園(神田川源流)と混同されがちな我が「井頭公園」(白子川源流)に、皆さん1一度いらしてみませんか。白子川沿いは直近まで住宅地が迫り、緑地、畑地も年々壊され、再開発ビルが林立しています。が、細くても、なんとまだ自然の湧水が水車を育て水鳥を呼び、湯水の姿が目に見える。なんとかホトケドジョウの世代交替をギリギリのところまで保証しているのです。様々な圧力の下で消滅して

しまいそうなこの湧水と、この生態系を守ろうと私達は旗を上げ、1回市民が集まって水質・生物調査や清掃をしています。真近な二つの小学校の総合学習に呼ばれて授業もさせてもらいました。井頭公園に仮設ステージを設け、テントを張り、小学生達に発表してもらったり、中・高生の吹奏楽部に演奏してもらったり、賑やかな「白子川源流まつり」を開くことができました。藻の細胞を顕微鏡で覗く人々の目が美しかったです。(記：本田 純氏)

田無の自然を見つめる会

私たちの会は、公民会講座より1991年に発足しました。緑の保全を中心に、大気・水辺の観察会・調査を行っています。緑の状況は、東大農場・演習林があるため、たいへん助かっていますが、生産緑地に指定された農地さえも年々減少し続けています。

市内には石神井川の支流がありすが湧水がなく、下水分流後は水量が極少なくなっています。構造が三面コンクリ

ートなので上部の鉄骨など景観上は貧しい川になってしまっています。郷土史を読むと、のどかな生活に密着した川とあはれ川との二つの姿が見えてきます。

活動は、水質調査とまちづくりのために、この川をどうしていきたいかを考えるところです。活動のあり方も、ダイオキシンの環境ホルモンなどの課題や、下水処理水の問題まで視野を広くもって行うように努めています。

(記：永田和子氏)



歩く見る聞く



シリーズ第4回 武蔵野台地とロート状井戸 編

はじめに

武蔵野台地に特徴的な井戸として、ロート状の断面をした井戸がある【図1】。上面は礫石が落ちたかとも思えるようなすり鉢形を呈し、そのすり鉢の底面から真っ直ぐに井筒部分が形成されているものである。これまでで紹介したが「まいまいず井戸」とか「七曲の井戸」と呼ばれているものがそれである。

これらの井戸は、火山灰土が厚く堆積する地下水の得にくい武蔵野台地では井戸は深く掘らねばならなかった。しかし、真っ直ぐに深く掘りぬく技術がなかったため、

上面を大きく掘り、水脈近くに至って井筒に掘ったものと説明されることが多い。

しかし、そうした説明をするより、水の得にくい武蔵野台地であって、地下水脈が得やすい場所に掘られたのがこのロート状井戸であり、地下水脈が得やすい地帯の地質条件からこうした形状にせざるを得なかったと、改めるべきと考え。

今回は、このロート状井戸の成立の背景を、河川や地下水脈との関係、古代・中世の官道との関係から、紹介してみたい。

武蔵野台地に知られる
ロート状井戸の分布

【図2】に示したロート状井戸は分布が知られる。大井町大井戸、狭山市堀兼の井戸・七曲の井戸、東村山市八坂神社付近のまいまいず井戸（3基）については、これまでに新河岸川流域河川の紹介の際に紹介してきたが、この他に羽村市五ノ神まいまいず井戸、府中市において遺跡発掘調査で1基のロート状井戸が発掘されている（府中の森博物館屋外に復元され展示されている）。

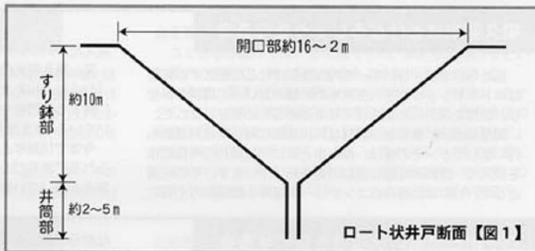
これらのうち、形状がほぼ原形をとどめているものは、狭山市七曲の井と羽村市五ノ神の井のみである。その2基の井戸は、いずれも江戸時代中期までは利用されていたため幾たびか井戸さらいなどをしてきた記録が残されているし、近年史跡として整備するため発掘調査がなされ、規模が明確に知ることができる。

■狭山市 七曲の井

- ロート部上面 直径約18~25m
 - ロート部 深さ 約10m
 - 井筒部 深さ 約5m
- 羽村市 五ノ神まいまいずの井
- ロート部上面 直径 約16m
 - ロート部 深さ 約4.3m
 - 井筒部 深さ 約5m

極めて大規模な井戸であることがわかる。

他のロート状井戸は復元されたり、形状が一部変容していたり、東村山市八坂神社付近の3基は開発されその明確な位置も不明である。



末無川に接して発見される
ロート状井戸

末無川と呼ばれる河川が、新河岸川の支流に多いということは、前回のシリーズで紹介した。末無川とは、水源から流れ出たものの、途中で河川が消えてしまう川である。先に分布を紹介したが、羽村市五ノ神まいまいず井戸と府中市の井戸を除くと、他は全てこの末無川に沿って確認される。さらに加えれば、そうした河川の形成した砂礫層を掘りぬいて作られていることが共通する。

しかし、河川に接してはながい、羽村市五ノ神まいまいず井戸、府中市の井戸も武蔵野台地の立川段丘面にあり、地表下約1mほどで砂礫層面に達する。

上面をロート状に掘らなければならなかったのは、武蔵野台地の特徴であるローム層があまり発達していない地質条件による。一般的な武蔵野台地であれば、ローム層が発達しており、地表面から井筒に掘ることも可能であるが、砂礫層ゆえに崩れやすいため、上面は

ロート状に掘らなければならなかったのである。ちなみにローム層の発達した武蔵野台地の中央部の三富新田などではおよそ2.0~2.5mもの井筒を掘っている。【図2】のロート状の井戸はいつれも古代末から中世のものであり、三富新田は江戸時代中期であって、時代が違ふ。古代・中世には深く井筒に掘る技術がなかったのではないかと、という疑問を投げかける方も多いと思うが、古代・中世においても深い井筒型の井戸は掘られていたし、土木技術は古代・中世において城郭や古墳などの遺産を見ても決して劣るものではなかったことは理解できる。

むしろ、地下水脈を用意に掘り当てる技術を持っていた古代・中世の人々に敬意を払うべきである。末無川は途中で河川は地表面からは消えてしまう。しかし、その河道すなわち地表下の砂礫層下を伏流して水は流れているのである。この伏流水を求めるといふ知恵が、ロート状の大規模な井戸を掘らせたのであると見るべきであろう。



堀兼神社と鎌倉街道
(神社境内に堀兼の井がある)



狭山市七曲の井
(まるで傾石坑のように大きく開口する)



不老川と七曲の井
(左の冊内が七曲の井)

古代・中世官道に沿って分布するロート状井戸

ところで、武蔵野台地に末無川や立川段丘のような地下1m程度で砂礫層が現れる地帯が決して少なくはない。もっと分布が広くまた多く見られてもよいように思える。なぜ限られた分布なのであろうか。実は、ここにも分布する地域に共通点が見出される。東村山市の八坂神社付近のまいまいず井戸、狭山市七曲の井戸の脇には鎌倉街道、さらにはその前道が古代東山道武蔵道という古代・中世の官道であったことが知られる。また狭山市堀兼の井や大井町

大井戸の脇にも鎌倉街道が知られる。さらに、府中市で発掘されたロート状井戸は、古代武蔵野の国府関連遺跡の一つから発見されている。国府とは奈良時代に各国に設けられた地方政治の中心地すなわち現在でいえば県庁所在地である。羽村の五ノ神まいまいず井戸付近にはこうした古代・中世の公官に関わる伝承の遺跡もないが、付近には中世に鋳物師の集団があったことが発掘や伝承から知られる。鋳物師は応時の為政者の影響を強く受ける可能性の強い集団である。

古代中世の旅人の渴きを潤す

想像をたくましくすれば、古代・中世に、この付近に暮らした人々も使ったであろうが、水の得にくい武蔵野を旅する旅人が、その渴きを癒すためこれらの井戸は利用されてきたものと思われる。また、古代武蔵野国あるいは中世において府中を發した東山道や鎌倉街道のほぼ4キロから8キロぐらいの距離においてロート状井戸はその存

在が知られる。砂礫層が発達する地域に無作為に掘ったものでなく、旅人の里程を意識して、公共的な工事によって、これらロート状井戸は掘削されたものとも考えられよう。

古代・中世の人々の武蔵野に暮らす知恵をこれらロート状井戸は伝えてくれる。

【図2】 新河岸川流域に知られるロート状井戸



羽村市五ノ神まいまいず井戸
(すり鉢部の水汲道がかたつむりの渦に似ていることからまいまいずと呼ばれる)



大井町大井戸
(上部のすり鉢部分の大半は長い間の河川改修などで削平されたものと考えられる)



新河岸川流域 行政からのお知らせ

新河岸川流域川づくり学習会

テーマ 川づくりにおける行政と市民の合意形成

日時 平成14年 3月9日(土) 午後1時~4時

会場 朝霞市産業文化センター 2F 研修室

参加費 無料(定員140名)

プログラム

1 開会挨拶

2 講演 講師: 田中 芳雄氏 (小金井市職員)
講師: 小林 一己氏 (黒目川流域川づくり懇談会)

3 パネルディスカッション

コーディネーター 佐々木 幸氏 (埼玉大学教授)
パネリスト 東京都河川部計画課 職員
埼玉県新河岸川総合治水事務所 職員
田中 芳雄氏 (同上)
小林 一己氏 (同上)

開催事務局

国土交通省 関東地方整備局
荒川下流工事事務所 調査課
お問合せ: 〒115-0004
東京都北区志茂5-4-1-1
TEL 03-3902-3220
FAX 03-3902-2346

参加申込みは、案内チラシにあります
申込用紙で上記までお申し込み下さい。
尚、申込用紙がお手元にございません
場合は、上記事務局まで、お問合せ下
さいますよう、お願い致します。

会場案内

東武東上線朝霞台下車
JR武蔵野線北朝霞駅下車
いずれからも徒歩5分



住所: 朝霞市大字法崎669-1
TEL 048-487-6222

学習会内容紹介

学習会では、事前に市民の皆様や行政の方々から、講師・コーディネーター・パネリストへの疑問・質問・ご意見を募集いたします。疑問・質問・ご意見は、メール・ファックス・手紙で、2月28日(木)までに事務局までにお寄せ下さい。
なお、講師・コーディネーター・パネリストの皆様、学習会で提供いただく内容や討議のためのお考えを、随時、ホームページ上に記載してまいります。ご確認下さい。また、当日会場において、自由にご発言いただく時間もごあります。

□ ホームページ <http://www5.ocn.ne.jp/~singasi/index.html> □ E-mail: singasi@vesta.ocn.ne.jp

【講師・コーディネーター】

田中 芳雄氏: 市の雨水浸透事業活動が第三回日本水大賞を受賞しました。具体的に市民と行政とのパートナーシップによる取り組みをご報告します。

小林 一己氏: 市民参加による黒目川改修計画の策定に携わる。黒目川の体験をお話して、市民・行政の方が教訓を学ばれることを期待します。

佐々木 幸氏: 元荒川市民会議議長(板橋区)として、市民と行政とのパートナーシップを実践。現在、荒川で生態系の動態の調査・研究を行っています。

主催 新河岸川流域総合治水対策協議会
新河岸川流域川づくり連絡会

事務局: 国土交通省 荒川下流工事事務所 調査課

市民の広場 一市民の活動レポート

不老川流域川づくり市民の会 課外授業「不老川お宝発見」活動報告

不老川再発見なるか!?

12月11日9時から11時30分まで、川越高階北小学校3年生(90人)の課外授業「不老川お宝発見」に「不老川流域川づくり市民の会」の11人が参加しました。

先立っての会の提案は次のようなものでした。

- *生徒を少人数のグループに分け、会員又は教師が一人つく。
- *生徒一人ひとりには歩く範囲の川のA4白地図を配っておき、川を歩来ながら気の付いたことを書いて貰う。
- *学校に戻りグループ毎に一枚の横道紙に不老川と各自の印象を書き、全体で14枚の不老川印象地図を作る。
- *14枚地図を全員で見、自分の見たこと見なかったことを比べ何か発見できるか。

生徒達は寒風の中、不老川の川岸、川の中を覗き込みながら約500mの両岸を歩きました。



写真:「魚が居るかな?」泥鰌一匹捕まえました

生徒は「大根発見!」「魚はいるのか?」などと白地図に思い思いの発見を記し、体育館で大地図の製作をしました。時間切れでみんなの地図を見ることはできませんでした。



写真:人の書くにつれ、記憶を呼戻す子も居ます

元気いっぱい走り、跳び、質問、しゃべる子供達と楽しい時間でした。

(記:不老川流域川づくり市民の会 中田寛氏)

新河岸川流域川づくり連絡会 報告

平成13年度 第8回

新河岸川流域川づくり連絡会とは?

国土交通省荒川下流工事事務所と市民の方々の情報交換の場として定期的に開催しています。参加を希望される方、詳しく内容につきましては、荒川下流工事事務所または新所沢事務所へお問い合わせ下さい。

(開催場所) 新所沢事務所 本紙P8参照
(お問合せ) 新所沢事務所 または、
新河岸川流域川づくり連絡会事務局
国土交通省 荒川下流工事事務所 調査課
TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346

第8回 平成13年 12月17日(月)

(1) 新河岸川流域「川づくり学習会」について

- ・住民や行政の関心がどこにあるのかを把握した上で学習会のテーマを考えなければ集まらないのではないかと。
- ・合意形成の方法については黒目川以外にも、周辺の自治体や事例などを取り上げることも検討してはどうか。
- ・流域フォーラムとの結びつきを考えながら、より市町村の関係者も関心をもてるようなテーマ、仕掛けづくりが必要である。
- ・今年度、日本水大賞を受賞した小金井市における浸透施設普及への取り組みについての情報提供を本市にしてもらうてはどうか。
- ・パネリストに行政と市民団体の代表者が挙げられているが、学習会のコーディネーターとして学識経験者にも入ってもらえれば良いかもしれない。
- ・コーディネーターは河川改修という面だけでなく行政と市民のパートナーシップという話題についても話題を提供してもらえそうな方を検討して欲しい。
- ・パネリストやコーディネーター、会場の予定を確認し、早急に学習会の日程を決定する必要がある。

(2) 流域情報誌「里川」について

今後は、新河岸川流域で活動を行っている多くの市民団体からも意見や情報などの原稿を寄せてもらった方が良い。

(3) 今後の予定

学習会の内容など、詳細については次回川づくり連絡会で決定する。詳しい日程については未定であるが、決まり次第、事務局より連絡する。

第9回の連絡会は、1月28日(月)に行われました。また、その内容は次号17号の「里川しんぶん」でお伝えします。第10回は、新河岸川流域川づくり学習会の後に行う予定となっております。ぜひご参加下さい。詳しくは、事務局または新所沢事務所へお問合せ下さい。

第1回~第8回の議事概要は、ホームページにも掲載されています。あわせてご覧下さい。
<http://www5.ocn.ne.jp/~singasi/index.html>

Information

イベントカレンダー

武蔵野の俳 七人展 (写真展)

カラー作品 56点
 出展者 荒橋 順男 市川 瑞雄 今泉 信孝 東松 友一
 松本 渡 宮野 信昭 矢野 靖博
 期間：3月14日(木)～3月27日(水)
 午前10:00～午後6:00 最終日 午後3:00
 日曜・祝日休館
 場所：オリンパスギャラリー
 東京都千代田区神田小川町1丁目3番地1号
 小川町三井ビルディング
 TEL 03-3292-1934 FAX 03-3292-1938
 問合せ：オリンパスギャラリー&ホール事務局
 担当 早川純敏 平井美穂

矢野靖博 写真集「三ヶ島彩四季」

写真集「三ヶ島彩四季」本サイズ H240×W250 64ページ
 頒 価：2000円(税込) 発行：平成14年1月末
 著 者：矢野靖博(日本写真協会会員、全日本写真連盟会員)
 住 所：埼玉県所沢市三ヶ島5-494-8 〒359-1164
 TEL/FAX: 042-948-9256



静しなく (1999.11) 三ヶ島5丁目



梅雨に咲く向日葵 (2001.6) 三ヶ島1丁目

不老川木の名札付けと魚調査

日 時：3月23日(土) *お弁当持参
 集 合：午前9時30分 入間市やまゆり荘前
 問合せ：不老川流域川づくり市民の会 相馬 TEL 042-965-1741

イベントに関するお問い合わせは
 新河岸川流域 新所沢事務所 TEL/FAX 042-994-3212
 変更も考えられますので、事前にお問い合わせ下さい。

新河岸川流域川づくり学習会

テーマ：川づくりにおける行政と市民の合意形成
 日 時：平成14年3月9日(土) 午後1時～4時
 会 場：朝霞市産業文化センター 2F 研修室
 プログラム：
 1 開会挨拶
 2 講 演 田中 芳雄氏(小金井市職員)
 小林 一己氏(黒目川流域川づくり懇談会)
 3 パネルディスカッション
 コーディネーター 佐々木 幸氏(埼玉大教授)
 パネリスト 東京都河川部計画課 職員
 埼玉県新河岸川総合治水事務所 職員
 朝霞市 職員
 田中 芳雄氏(同上)
 小林 一己氏(同上)
 申込み/問合せ：国土交通省 荒川下流工事事務所 調査課
 〒115-0004 東京都北区志茂5-4-1-1
 TEL：03-3902-3220/FAX：03-3902-2346

● 詳しくは、本紙P6をご覧ください ●

黒目川流域川づくり懇談会 13年度新春シンポジウム

テーマ：縄文から現代・川の歴史・川の文化
 講 師：森 良氏(環境教育情報センター)
 山崎丈氏(東久留米市社会教育学芸委員)
 日 時：3月17日(日) 午後1時～4時
 場 所：東久留米市東部区民センター
 問合せ：菅谷 TEL 0424-72-0882

黒目川上流を歩く

日 時：4月14日(日) *お弁当持参
 集 合：午前9時 朝霞駅南口
 午前9時45分 東久留米駅東口
 問合せ：黒目川に親しむ会 藤井 TEL 048-466-0916

新所沢事務所

里川しんぶんについてや、活動についてのお問合せは、
 新所沢事務所まで、お気軽にどうぞ。

開館時間

月・水・金曜日 午後1時～午後5時
 土・日曜日・祝日 午前10時～午後5時
 火・木曜日 休館

ご使用になる場合は、開館時間の変更も可能です。
 ご利用の方は新所沢事務所までご連絡下さい。

「里川しんぶん」掲載情報を大募集します!

各流域や地域での活動報告やイベント情報を募集しています。身近な情報
 などをお手紙、FAXまたはEメールで新所沢事務所までお寄せ下さい。

〒 359-0043 所沢市弥生町2996-6 1F
 新河岸川流域川づくり連絡会 新所沢事務所
 TEL/FAX 042-994-3212
 E-mail singasi@vesta.ocn.ne.jp



新年、明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願致します。
 今年度も新河岸川流域川づくり学習会を3月に開催することとなりました。みなさん、ぜひご参加ください。
 また、学習会の報告は次号の里川17号でもお伝えする予定です。